

2014年度・所員活動報告

2014 Research Reports

(2014年4月1日～2015年3月31日)

氏名・専門領域	浅井 春夫 ●子どもの福祉, セクソロジー
著書	浅井春夫 (2015) 「戦争は『被災孤児』を生み出す」共著『戦争と平和についてボクらが考えていること』本の泉社.
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 浅井春夫 (2014) 「基地と隣り合わせの子育て」『教育』No.824, pp.90-97. 2) 浅井春夫 (2014) 「児童養護施設で暮らす子どもたちに大学進学を保障を」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第2号, pp.1-23. 3) 浅井春夫 (2015) 「田井等孤児院と日本軍『慰安婦』問題」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第17号, pp.1-20.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 浅井春夫 (2014) 『季刊SEXUALITY』(エイデル研究所) 「幼児期にしたい性のお話」連載 (28～30回, NO.65～67, 2014年7月まで). 2) 浅井春夫 (2014) 『季刊SEXUALITY』(エイデル研究所) 「社会問題をセクソロジーする」連載 (1回, NO.68, 2014年10月～). 3) 浅井春夫 (2014) 「今日の学童保育と子ども・子育て支援新制度の課題について」『日本の学童ほいく』2014年6月号. 4) 浅井春夫 (2014) 「子どもが保育の隙間に落ちないように」『女性のひろば』2014年7月. 5) 浅井春夫 (2014) 「子どもの貧困対策法にどう向き合うか」『医学評論』第114号, pp.29-37. 6) 浅井春夫 (2014) 「座談会 子ども・子育て支援新制度の問題点」『住民と自治』2014年8月号.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) “人間と性” 教育研究協議会代表幹事 (継続) 2) 『季刊SEXUALITY』編集委員 (継続) 3) 全国保育団体連絡会副会長 (継続) 4) 新座市「子ども・子育て会議」会長 (2013年6月～) 5) 陸前高田市「子ども・子育て会議」委員 (2013年10月～) 6) 日本思春期学会理事 (継続) 7) 日本子どもを守る会『子ども白書』編集委員 (継続) 8) 戦争と福祉をみんなで考える会呼びかけ人

氏名・専門領域	安藤 佳代子 ●障がい者スポーツ, アダプテッドスポーツ
資料・研究ノート等	安井友康, 安藤佳代子, 井上智晶 (2014) 「アダプテッド体育・スポーツに関する国際動向—アジア・ASAPEの取り組みとソチパラリンピック報告—」『障害者スポーツ科学』12号, no.1, pp.51-60.
学会発表	安藤佳代子 (2014) 「障がい者スポーツ体験とパラリンピアンとの交流が及ぼす効果—大学授業における学生アンケート調査より—」日本レジャー・レクリエーション学会第44回学会大会, 埼玉, 12月.
学内・学外における社会的活動等	1) 第26年度健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業 (地域のスポーツクラブにおける障害者スポーツの導入) 実務会議メンバー

学内・学外における社会的活動等	2) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事 3) 日本車いすテニス協会理事 4) 日本障害者スキー連盟常任理事 5) 科学研究費助成金 若手研究 (B) 「テニスコートの違いによる競技用車椅子の摩擦抵抗」, 研究代表者 (平成24～27年度)
-----------------	--

氏名・専門領域	飯村 史恵 ●福祉マネジメント論, 権利擁護システム
著書	飯村史恵 (2015) 「『地域福祉の時代』における市区町村社会福祉協議会の展望—住民会員制度と住民参加に関する試論—」 橋本宏子, 飯村史恵, 井上匡子編著 『社会福祉協議会の実態と展望—法学・社会福祉学の観点から』 日本評論社.
資料・研究ノート等	飯村史恵 (2014) 「社会福祉協議会」精神保健福祉白書編集委員会 『精神保健福祉白書2015年度版 改革ビジョンから10年—これまでの歩みとこれから』 中央法規出版.
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区補助金審査委員会委員長 2) 社会福祉法人練馬区社協地域福祉活動計画策定評価・推進委員及び権利擁護センター運営委員会副委員長 3) 社会福祉法人文京区社会福祉協議会地域福祉計画推進委員会委員 4) 社会福祉法人新宿区社会福祉協議会第三者委員 5) 日本福祉介護情報学会理事 6) 滝乃川学園権利擁護委員会委員, 公益通報者保護委員会委員 7) 社会福祉法人黎明会救護施設あかつき及び社会福祉法人共働学舎第三者委員 8) 一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟運営委員・福祉教育委員会委員 9) 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと理事 10) 科学研究費助成事業 (挑戦的萌芽研究) 「日常生活自立支援事業に関する研究—利用者の自己決定とコミュニティワークからの考察」 (平成25～27年度・研究代表者) 11) 科学研究費助成事業 (基盤研究c) 「社会福祉協議会の現代的意義と課題—地域福祉計画における役割を中心に」 (平成26～28年度・研究分担者・研究代表者諸坂佐利神奈川大学准教授)

氏名・専門領域	石井 秀幸 ●バイオメカニクス, スポーツ工学
論文	Ishii, H., Sakurai, Y., Maruyama, T. (2014) "Effect of soccer shoe upper on ball behaviour in curve kicks", <i>Scientific Reports</i> , 4, 6067; DOI:10.1038/srep06067.
学会発表	1) 永野康治, 石井秀幸, 笹木正悟 (2014) 「切り返し動作中の体幹加速度と体幹屈曲筋力の関係について」 日本体育学会第65回大会, 岩手, 8月. 2) Nagano, Y., Higashihara, A., Sasaki, S., Ishii, H. (2014) "Relationships between trunk accelerations and trunk and lower limb positions during shuttle run cutting" 7th World Congress of Biomechanics, Boston, 7月. 3) 永野康治, 井田博史, 石井秀幸, 福林徹 (2014) 「膝関節疾患に対する動作解析の活用」 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 5月.
学内・学外における社会的活動等	科学研究費補助金 若手研究 (B) 「高速X線撮影を用いた3次元計測と有限要素解析による接地中の足部内挙動の解明」, 研究代表者, 2013-2015年度

氏名・専門領域	石渡 貴之 ●環境生理学, 温熱生理学, 発育発達
論文	Ishiwata T (2014), Role of serotonergic system in thermoregulation in rats”, <i>Journal of Physical Fitness and Sports Medicine</i> , vol.3, no.4, pp.445-450.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Takayuki Ishiwata, Takeru Matsumura, Hikaru Nakagawa, Kota Suzuki, Chisa Ninomiya, Shinya Yanagita, Hiroshi Hasegawa (2014), “Changes in monoaminergic neurotransmitters and physiological responses of rats with continuous heat exposure”, Neuroscience 2014, Washington D.C., 11月. 2) Takeru Matsumura, Hikaru Nakagawa, Kota Suzuki, Chisa Ninomiya, Shinya Yanagita, Hiroshi Hasegawa, Takayuki Ishiwata (2014), “Influence of light condition to physiological index and neurotransmitters” Neuroscience 2014, Washington D.C., 11月. 3) Hikaru Nakagawa, Takeru Matsumura, Kota Suzuki, Chisa Ninomiya, Shinya Yanagita, Hiroshi Hasegawa, Takayuki Ishiwata (2014), “Effect of heat acclimation on monoaminergic neurotransmitters in the caudate putamen in rats” Neuroscience 2014, Washington D.C., 11月. 4) S. Yanagita, N. Kubota, Y. Takano, T. Matsuzawa, T. Ishiwata, K. Takeda (2014), “Monoamine precursor injections influence individual difference of spontaneous physical activity in rats” Neuroscience 2014, Washington D.C., 11月. 5) 石渡貴之, 久保木祐生, 近藤智, 荻久保哲哉, 才田昌弘, 田中宏暁, 満石寿, 遠藤伸太郎, 安松幹展, 松尾哲矢, 松山真, 大石和男 (2014)「うつ病患者のSIgAの日内変動及びスロージョギングの効果」第69回日本体力医学会, 長崎, 9月. 6) 松村健, 中川晃, 鈴木航太, 二宮千紗, 柳田信也, 長谷川博, 石渡貴之 (2014)「明暗サイクルの変化が生理指標、行動、脳内神経伝達物質に及ぼす影響」第69回日本体力医学会, 長崎, 9月. 7) 中川晃, 松村健, 柳田信也, 長谷川博, 石渡貴之 (2014)「深部体温の変動と認知機能の関係性」第69回日本体力医学会, 長崎, 9月. 8) 柳田信也, 久保田夏子, 高野由莉香, 松澤智美, 石渡貴之, 武田健 (2014)「日常的な運動量の個体差がモノアミン神経系を介した運動の抗うつ効果に及ぼす影響」第69回日本体力医学会, 長崎, 9月. 9) 松村健, 中川晃, 柳田信也, 長谷川博, 石渡貴之 (2014)「明暗サイクルの変化が抑うつ関連行動と脳内セロトニン量に及ぼす影響」第161回日本体力医学会関東地方会, 女子栄養大学, 7月. 10) 中川晃, 松村健, 柳田信也, 長谷川博, 石渡貴之 (2014)「ラットにおける暑熱順化時の脳内モノアミン量の変化」第161回日本体力医学会関東地方会, 女子栄養大学, 7月.
学内・学外における社会的活動等	<p>(社会的活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本体力医学会 評議員 2) 日本生理学会 評議員 3) 公益社団法人 全国大学体育連合 常務理事, 指導者養成委員会 委員長 4) 新座市健康づくり推進協議会 委員 5) 府中市立南町小学校 スクール・コミュニティ協議会 委員 <p>(講演会)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出張睡眠市民公開講座「心身コンディショニングと生体リズム」, 足利市健康増進課, 2014年7月 2) 「めざす子ども像のイメージを現実に～生理指標計測による可能性～」大野原小学校, 2014年10月 <p>(研究活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文部科学省科学研究費 基盤研究C「自発運動が体温調節及び視策前野/前視床下部の脳内神経伝達物質に及ぼす影響」(2014-2016) 2) 小学生の体力及びモチベーション向上に関する実証的研究～産学官連携健康教育～ (2014-2016)

氏名・専門領域	今西 平 ●コンディショニング科学
論文	今西平 (2015) 「垂直跳びと疾走運動課題における主観的努力度と客観的出力の対応関係」『身体運動文化論攷』第14号, pp.113-125.
資料・研究ノート等	今西平, 出井章雅, 鈴木奈都美, 黄金禄, 梅林薫 (2015) 「国内ジュニアテニス選手における年代別にみた体力の特徴」『テニスの科学』第23巻, pp.94-95.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Umebayashi,Kaoru., Suzuki,Natsumi., Imanishi,Taira. (2014) “Studies on Physical Fitness of Speed and Agility in University Elite Tennis Players.” 19th annual Congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, 6月. 2) 今西平, 鈴木奈都美, 四宮邦泰, 梅林薫 (2014) 「競技力が高いテニス選手のフットワーク能力を構成する体力的要素」第65回日本体育学会, 岩手, 8月. 3) 鈴木奈都美, 今西平, 四宮邦泰, 梅林薫 (2014) 「テニスにおけるジュニア期から強化しておきたい体力要素の研究」第65回日本体育学会, 岩手, 8月.

氏名・専門領域	大石 和男 ●健康心理学, スポーツ心理学
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新谷健介, 嘉瀬貴祥, 遠藤伸太郎, 大石和男 (2014) 「被災体験からの立ち直りにおける被災者の心理的変化—阪神淡路大震災被災者の質的研究の観点から—」立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第7号, pp.141-150. (査読無). 2) 廣野正子, 遠藤伸太郎, 大石和男 (2015) 「特別養護老人ホーム介護職員の Sense of Coherence (SOC) と仕事満足度の関係」地域福祉研究 43号, pp.70-77. (査読有). 3) 大塚光太郎, 嘉瀬貴祥, 遠藤伸太郎, 大石和男 (2015) 「東日本大震災におけるグリーフサポートプログラムの果たす機能—参加児童と保護者の視点から—」地域福祉研究 43号, pp.78-87. (査読有).
資料・研究ノート等	大石和男, 熊上崇, 山口敬子 (2015) 「私語ワーキンググループ報告 私語問題の解決に向けて」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第17号, pp.115-120.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Tanaka, T. et al. (2014) Determination of optimum conditions in sprint-assisted training for competitive swimmers. XIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming. Australian Institute of Sport, Canberra, Australia (April- May, 2014). 2) 遠藤伸太郎 他 (2014) アスリートにおける謙虚な思考に関する基礎的研究. 第12回スポーツ動機づけ研究会, 愛知, 2014年5月18日. 3) Endo, S. et al. (2014) How do college athletes cope with stressful events and experience psychological growths? : From the views of Sense of Coherence. The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology, Tokyo, Japan (August, 2014). 4) Kase, T. et al. (2014) Effects of Sport Experience: Does Participation in Extracurricular Sports Club Activities Enhance Life Skills and Prosocial Behavior? The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology, Tokyo, Japan (August, 2014). 5) Kimura S. et al. (2014) Mental Health for Athletes in Connection with Dietary Life Style. The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology, Tokyo, Japan (August, 2014). 6) Bannai, K. et al. (2014) What factor related to mental health in music major college students? The 28th Conference of the European Health Psychology Society. The 28th Conference of the European Health Psychology Society, Innsbruck, Austria (August, 2014). 7) Endo, S. et al. (2014) Development of the New Mental Health Scale for The Japanese Disaster Victims and Supporters. The 28th Conference of the

<p>学会発表</p>	<p>European Health Psychology Society, Innsbruck, Austria (August, 2014).</p> <p>8) Kase, T. et al. (2014) Relationships among Aggression, Social Support, Life Skills, and Mental Health in Japanese College Students. The 28th Conference of the European Health Psychology Society, Innsbruck, Austria (August, 2014).</p> <p>9) Kimura S. et al. (2014) Relationships among Dietary Life Style, Inner Strength, and Mental Health in Japanese College Students. The 28th Conference of the European Health Psychology Society, Innsbruck, Austria (August, 2014).</p> <p>10) Mitsuishi, H. et al. (2014) The effect of resilience on subjective stress response and salivary secretory immunoglobulin A. The 28th Conference of the European Health Psychology Society, Innsbruck, Austria (August, 2014) (日本健康心理学会 ヤングヘルスサイコロジスト賞受賞).</p> <p>11) 石渡貴之 他 (2014) うつ病患者の唾液中免疫グロブリンAの日内変動およびスロージョギングの効果. 第9回日本体力医学会大会, 於長崎 2014年9月.</p> <p>12) 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2014) 「大学生におけるライフスキルと向社会的行動の関係」日本学校保健学会, 於沖縄, 2014年10月.</p> <p>13) 遠藤伸太郎 他 (2014) 「大学生競技者における謙虚さに関する基礎的研究」日本パーソナリティ心理学会第23回大会, 於山梨, 2014年10月4日.</p> <p>14) 木村駿介 他 (2014) 「中食」の利用頻度と抑うつの関連」第27回健康心理学会, 於沖縄, 2014年11月1日.</p> <p>15) 坂内くらら 他 (2014) 「音大生の「あがり」はメンタルヘルスの悪化と関連するか?」第27回健康心理学会, 於沖縄, 2014年11月1日.</p> <p>16) 嘉瀬貴祥 他 (2014) 「短時間で実施する「傾聴スキルの獲得」プログラムの効果」第27回健康心理学会, 於沖縄, 2014年11月2日.</p> <p>17) 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2014) 「大学生におけるライフスキルと向社会的行動の関係」第61回日本学校保健学会学術大会, 於金沢, 2014年11月16日.</p> <p>18) 会田陽香 他 (2014) 「卓球の授業が大学生活に与える影響について. テキストマイニングを使った分析と考察」第8回立教大学コミュニティ福祉学会「まなびあい」, 於立教大学, 2014年11月9日.</p> <p>19) 会田陽香 他 (2015) 「大学生におけるスポーツ授業が気分や生活に与える影響—テキストマイニングを用いた分析と考察—」日本学校メンタルヘルス学会第8回大会, 於神戸, 2015年1月10日.</p> <p>20) 坂内くらら 他 (2015) 「音楽専攻大学生における演奏時の「あがり」に関連する心理的要因」日本学校メンタルヘルス学会第8回大会, 於神戸, 2015年1月10日.</p>
<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<p>1) 埼玉県彩の国生きがい大学講演会講師「心とからだの健康管理」, 於埼玉県川越市市民会館 2014年6月12日.</p> <p>2) 江戸川区主催講演会講師「ストレスをなくす心～良好な人間関係の構築～」, 於江戸川区立中央図書館 2014年7月5日.</p> <p>3) 2014年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師, 自分を知り生きがいを創造するための心理学 ～ポジティブ心理学の視点から～「ポジティブ心理学と生きがいの創造」, 於埼玉県県民総合活動センター 2014年11月16日.</p> <p>4) 2014年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師, 自分を知り生きがいを創造するための心理学 ～ポジティブ心理学の視点から～「自分を知るための心理テストとリフレミング」, 於埼玉県県民総合活動センター 2014年11月23日.</p> <p>5) 2014年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師, 自分を知り生きがいを創造するための心理学 ～ポジティブ心理学の視点から～「目標設定の技術と生きがいの創造」, 於埼玉県県民総合活動センター 2014年11月30日.</p> <p>6) 2014年度大学連携講座けんかつオープンカレッジ講師, 自分を知り生きがいを創造するための心理学 ～ポジティブ心理学の視点から～「基本的な人生</p>

学内・学外における社会的活動等	<p>観と自分の強みを知る」, 於埼玉県民総合活動センター 2014年12月7日.</p> <p>7) 立教大学教育懇談会基調講演講師, 「青年期を理解するー良好な親子関係の構築ー」, 於立教大学2014年11月8日.</p> <p>8) ジュニア/ユースアスリート養成ウインターキャンプ2014, 「アスリートの心理」, 於横浜ゴム湘南セミナーハウス 2014年12月20日.</p>
-----------------	---

氏名・専門領域	岡田 哲郎 ●地域福祉, コミュニティワーク, 民俗としての福祉論
著書	岡田哲郎 (2014) 「地域を基盤としたソーシャルワーク」金子光一編 『Nブックス新版 社会福祉概論』建帛社.
資料・研究ノート等	<p>1) 岡田哲郎 (2014) 「地域を支える福祉専門職の活用・組織のあり方を考えるワークショップー社協職員・行政職員が考える問題意識の共有を通してー (第6回年次大会分科会発表報告書)」『まなびあい』第7号, pp.90-95.</p> <p>2) 岡田哲郎 (2014) 「『コミ福祉協の会』と『コミ福公務員の会』の連携について (卒業生の活動報告)」『まなびあい』第7号, pp.227-230.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 日本社会福祉学会関東部会運営委員会運営委員</p> <p>2) ふじみ野市地域福祉計画審議会副会長</p> <p>3) 平成26年度立教大学社会福祉士実習指導者講習会講師「スーパービジョン論」</p> <p>4) コミュニティ福祉学部地域連携・協働プロジェクト「地域の宝探しプロジェクト」</p> <p>5) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会「地域の宝探しワークショップ」ファシリテーター</p> <p>6) 平成26年度新座市北部第二地区地域福祉推進協議会「中間報告会」講師</p> <p>7) 坂戸市社会福祉協議会「孤立防止フォーラム」講師兼ファシリテーター</p> <p>8) 鳩山町社会福祉協議会「福祉委員全体研修会」講師</p> <p>9) コミュニティ福祉学会第7回年次大会“まなびあい”大会シンポジウム「コミュニティ福祉と希望ー私たちはいかに希望をつなぎ、育めるのかー」コーディネーター兼コメンテーター</p> <p>10) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト (石巻拠点担当, 学生支援担当)</p>

氏名・専門領域	河東 仁 ●宗教学宗教学史学, 日本文化・思想史
著書	河東仁編著 (2014) 『夢と幻視の宗教史 下』リトン社.
論文	<p>1) 河東仁 (2014) 「コミュニティと文化ー文化政策の基礎ー」坂田周一監修『コミュニティ政策学入門』誠信書房, pp.256-272.</p> <p>2) 河東仁 (2014) 「日本の昔話と夢ーシャーマニズムの視座からー」河東仁編著『夢と幻視の宗教史 下』リトン社, pp.9-29.</p>
資料・研究ノート等	河東仁 (2014) 「夢と心理学ー夢は合わせがらー」『みんぱく』第38巻第3号, 国立民族学博物館, pp.4-5.
学内・学外における社会的活動等	新座市障がい者就労支援センター運営委員会会長

氏名・専門領域	空閑 厚樹 ●生命倫理学
論文	坂無淳, 沖直子, 河東仁, 空閑厚樹 (2015) 「大学教育におけるファシリテーションー立教大学コミュニティ福祉学部の実践例から」『立教大学コミュニ

論文	『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』17号, pp.21-41.
資料・研究ノート等	1) 空閑厚樹(2014)「『いのち』への配慮とコミュニティ(9)」『シンビオーシス』75号, pp.11-13. 2) 空閑厚樹(2014)「『いのち』への配慮とコミュニティ(10)」『シンビオーシス』76号, pp.10-13.
学会発表	「生命倫理と医療倫理 バイオエシックス市民運動の立場から」(2014) 第26回日本生命倫理学会年次大会, 浜松, 2014年10月25日.

氏名・専門領域	熊上 崇 ●司法領域の心理・リハビリテーション学, 発達障害学
著書	1) 熊上崇(2015)『発達障害のある触法少年の心理・発達アセスメント』明石書店.(平成26年度科学研究費助成事業研究成果公開促進費(学術図書)(課題番号265198)). 2) 熊上崇(2015)「集団的自衛権と立憲主義」浅井春夫編著『戦争と福祉についてボクらが考えていること』pp.119-129.本の泉社.
論文	1) Kumagami,T. & Kumagai,K.(2014) "Measuring Adjustment in Japanese juvenile delinquents with learning disabilities using KABC-II-J", <i>Psychiatry and Clinical Neurosciences</i> , vol. 68, pp.768-775. (査読あり). 2) 熊上崇(2014)「発達障害(特に自閉症スペクトラム)を有する触法事例の現状と課題」『リハビリテーション連携科学』第15巻2号, pp.12-20. (査読あり). 3) 熊上崇(2014)「司法におけるKABC-IIの実施と臨床的適用～視覚的能力の高さがゲーム依存に影響していた少年の事例から～」『KABCアセスメント研究』第15巻, pp.9-18. (査読あり). 4) 熊上崇(2014)「パチンコ・スロット利用者における病的賭博者の特徴とソーシャルサポート」『精神神経学雑誌』第116巻6号, pp.475-486. (査読あり). 5) 熊上崇(2014)「大学生におけるパチンコ・スロットの頻度と意識～首都圏の一大学における調査から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第2号, pp.49-60. (査読なし).
資料・研究ノート等	熊上崇(2015)「大学院生のための研究法」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第17号, pp.103-114.
学会発表	1) 熊上崇(2014)「パチンコ・スロット利用者における病的賭博者の頻度とソーシャルサポートの特徴」第110回日本精神神経学会, 横浜, 9月. 2) 熊上崇(2014)「高校生へのKABC-IIのクラス単位での実施」第17回日本K-ABCアセスメント学会, 札幌, 8月.
学内・学外における社会的活動等	1) 新座市教育委員会, 新座市いじめ問題対策連絡協議会委員 2) 学校心理士資格認定協会講師「日本版KABC-IIの実施法」 3) 日本KABCアセスメント学会 初級講習会講師 4) 東京都立中野特別支援学校 外部専門家によるケース相談 5) 横浜地方裁判所 裁判員裁判 鑑定人

氏名・専門領域	小長井 賀與 ●司法福祉, 犯罪社会学, 修復的司法
著書	松本勝, 小長井賀與他(2015)『更生保護入門第4版』, 成文堂, 3月.
論文	1) 小長井賀與(2014)「イギリスの性犯罪対策」, 女性犯罪研究会編『性犯罪・被害』, 尚学社, pp.249-267, 6月. 2) 小長井賀與(2014)「日本の更生保護と特徴と今後の方向性」, 『青少年問題』第655号, 一般財団法人 青少年問題研究会, pp.18-25, 7月.

学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小長井賀與 (2014) 「イギリスの保護観察と犯罪者の社会的包摂」, 『ヨーロッパの社会内処遇 ～更生保護とソーシャルインクルージョン～』, 第3回更生保護学会, 京都, 12月. 2) Kayo Konagai (2014) "Offenders' Desistance Needs and the Support System: A Japanese Perspective and Task Encouraging their Reintegration into Community, 7th Annual Conference of Asian Criminological Society, 大阪, 6月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 立教大学人権ハラスメントセンター 副センター長 2) 公開講座講師 (2014) 「児童虐待と修復的正義」, 東京大学REASE公開講座『児童虐待被害者支援策の新展開』, 7月 3) 厚生労働省平成27年度刑務所出所者等就労支援事業 企画書評価委員会委員長 4) 日本司法福祉学会理事, 同学会誌編集委員 5) 日本犯罪社会学会常務理事 6) 日本更生保護学会常務理事, 同学会誌編集委員 7) 更生保護法人・全国更生保護法人連盟 評議員 8) 更生保護法人・更生保護振興財団 評議員 9) 保護司研修月刊誌「更生保護」(日本更生保護協会) 編集委員 10) 東京都世田谷区保護司

氏名・専門領域	権 安理 ●公共哲学, コミュニティ理論
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本財団学生ボランティアセンター研究委員 2) 千葉大学普遍教育センター非常勤講師 3) 立教大学社会学部兼任講師 4) 立教大学文学部兼任講師 5) 早稲田大学社会科学部非常勤講師 6) 千葉大学普遍教育センター・大山廃校利用を考える有志の会主催「第3回千葉大生が大山にやってくる」企画・運営

氏名・専門領域	坂田 周一 ●福祉制度論, 社会政策論
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 坂田周一 (2014) 「割当」日本社会福祉学会編『社会福祉学辞典』丸善, pp.140-141. 2) 坂田周一 (2014) 「社会的ニード」岩崎晋也, 岩間伸之, 原田正樹編『社会福祉研究のフロンティア』有斐閣, pp. 4-7. 3) 坂田周一 (2015) 「社会政策と租税支出—ティトマス「福祉の社会的分業」60周年に寄せて」『コミュニティ福祉学部紀要』第17号, pp. 43-61.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉士国家試験委員長 2) ユニバーサル財団研究助成審査委員 3) 一般財団法人厚生労働統計協会評議員

氏名・専門領域	坂無 淳 ●社会学, 社会調査, ジェンダー研究
論文	<ol style="list-style-type: none"> 1) 坂無淳 (2015) 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』第65巻4号, pp.592-610. 2) 坂無淳, 沖直子, 河東仁, 空閑厚樹 (2015) 「大学教育におけるファシリテーション——立教大学コミュニティ福祉学部の実践例から」『立教大学コミュ

論文	ニティ福祉学部紀要』第17号, pp.21-41. 3) 坂無淳 (2014) 「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第2号, pp.61-80.
学会発表	Sakanashi, J. (2014) "Work and private life of university professors in Japan and positive action taken by Japanese universities." XVIII ISA World Congress of Sociology, Yokohama, 7月.
学内・学外における社会的活動等	1) 坂無淳 (2014) 「コミュニティって何? コミュニティについて調べるってどういうこと? ——社会調査で読み解く」立教大学オープンキャンパス・コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科・体験授業, 立教大学新座キャンパス), 8月 2) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興プロジェクト (石巻拠点)

氏名・専門領域	三本松 政之 ●福祉社会学, 地域社会学
論文	1) 金信慧, 三本松政之 (2014) 「韓国の地方自治体における高齢者自殺予防システム」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第2号, pp.25-48. 2) 三本松政之 (2015) 「これからの社会における共生、ソーシャル・インクルージョン」『月刊福祉』3月号, pp.18-21.
学内・学外における社会的活動等	葛飾区社会福祉協議会 介護支援サポーター制度運営協議会委員長

氏名・専門領域	柴崎 祐美 ●高齢者福祉論, 介護者支援
論文	柴崎祐美, 湯本品代, 佐藤美穂子 (2015) 「超重症児・準超重症児の身近な地域での療育の保障に向けて: 療養通所介護における障害児通所支援の現状と可能性」『訪問看護と介護』Vol.20 No.2, pp.148-153.
資料・研究ノート等	柴崎祐美 (2014) 「職業からの引退」『高齢者のこころとからだ事典』pp.412-413.
学会発表	1) 柴崎祐美, 佐藤美穂子 (2014) 「在宅介護終了後の家族介護者支援の必要性: 健康課題の把握と予防に焦点をあてて」日本ケアマネジメント学会第13回研究大会, 新潟, 7月. 2) 柴崎祐美 (2014) 「医療的ケアを要する要介護高齢者の介護を担う高齢家族介護者の実態」日本老年行動科学会第17回大会, 東京, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 明治学院大学非常勤講師 2) 社会福祉法人埼玉県共済会尚和園職員研修講師 3) 2014年度FDワークショップ「アカデミック・スキルと問題意識を培うコースデザイン: コミュニティ福祉学部「基礎演習」の取り組み」授業担当者

氏名・専門領域	芝田 英昭 ●社会保障論, ニュージーランドの社会保障
著書	芝田英昭 (2014) 『安倍政権の医療・介護戦略を問う』あけび書房.
論文	1) 芝田英昭 (2014) 「社会福祉法人制度には何が求められているのか」『月間福祉』全国社会福祉協議会, 第97巻第13号, pp.12-17. 2) 芝田英昭 (2014) 「社会保障市場化の動向」『学習の友2015年春闘別冊』労働者教育協会, pp.71-77. 3) 芝田英昭 (2014) 「直面する介護・医療・社会福祉法人各制度改変の問題点と課題を考える」『月刊ゆたかなくらし』全国高齢者問題研究会, 通巻384号, pp.18-22.

論文	<p>4) 芝田英昭 (2014) 「安倍政権の医療・介護の市場化を糾す」『隔月刊社会保障』中央社会保障推進協議会, No.457, pp.8-17.</p> <p>5) 芝田英昭 (2014) 「健康は自己責任か? 社会保障解体は許せない」『月刊女性 & 運動』新日本婦人の会, 通巻387号, pp.7-11.</p> <p>6) 芝田英昭 (2014) 「安倍政権が目指す医療・介護戦略を問う」『診療研究』東京保険医協会, 第498号, pp.17-31.</p> <p>7) 芝田英昭 (2014) 「安倍政権の医療・介護戦略の方向性」『住民と自治』自治体問題研究所, 通巻618号, pp.6-11.</p> <p>8) 芝田英昭 (2015) 「規制改革と医療費適正化、そして医療の未来は」『保険診療』医学通信社, 通巻1502号, pp.21-32.</p> <p>9) 芝田英昭 (2015) 「健康・医療戦略と介護保障の今後」『賃金と社会保障』旬報社, 第1627号, pp.4-24.</p> <p>10) 芝田英昭 (2015) 「TPP参加交渉と日本の医療のゆくえ」『ニュージーランド研究』ニュージーランド学会, 第21巻, pp.1-14.</p> <p>11) 芝田英昭 (2015) 「ニュージーランドにおける現行保健制度の特徴と課題」『健保連海外医療保障』健康保険組合連合会, No.105, pp.16-29.</p>
資料・研究ノート等	<p>*コラム</p> <p>・芝田英昭 (2015) 「国保はいのちを守る社会保障制度」『いつでも元気』保険医療研究所, 第281号, pp.10-11.</p> <p>*書評</p> <p>・芝田英昭 (2014) 「長友薫輝編著『長友先生、国保って何ですか?』」『総合社会福祉研究』総合社会福祉研究所, 第43号, pp.134-135.</p>
学会発表	芝田英昭 (2014) 「TPP交渉における米国の圧力と日本の医療への影響」第80回ニュージーランド学会研究大会, 京都市, 12月.
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 自治体問題研究所理事 (継続)</p> <p>2) 医療生協さいたま生活協同組合・社会貢献補助金選考委員長 (継続)</p> <p>3) 社会保障政策研究会主宰 (継続)</p> <p>4) 介護保険白書編集委員長 (継続)</p>

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●スポーツ栄養学, 健康栄養学
著書	<p>1) 杉浦克己 (2014) 「II 4 D. 栄養とサプリメント」林光俊, 岩崎由純編著『ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療改訂第2版』南江堂.</p> <p>2) 杉浦克己 (2014) 「第2章 5. 水泳の栄養学」(公益財団法人) 日本水泳連盟編『水泳コーチ教本 第3版』大修館書店.</p> <p>3) 杉浦克己 (2014) 「第2編 第3章 第1節. スポーツ栄養学と食品開発」『進化する運動科学の研究最前線』エヌ・ティー・エス.</p> <p>4) 杉浦克己 (2015) 「みんなのスポーツ栄養」『イラストでみる最新スポーツルール'15』大修館書店.</p>
論文	<p>1) 杉浦克己 (2014) 「特集 子どものからだと活動を支える栄養」巻頭言および編集. 『子どもと発育発達』12 (2), pp.86-130.</p> <p>2) 杉浦克己 (2015) 「東日本大震災被災者の栄養摂取状況」『コミュニティ福祉学部紀要』第17号, pp.63-69.</p>
資料・研究ノート等	<p>1) 杉浦克己 (2014) 「勝負メシ 百年の計 シリーズ栄養をたどって 戦後70年 第5回『朝日新聞』7月24日(夕刊) 2面.</p> <p>2) 杉浦克己 (2014) 「サプリメントの効用と注意点」『M-SPIRIT』7月号, pp.52-53.</p>
学会発表	1) SUGIURA, K., SAKAI, K., TAKENAMI, E., ISHII, K., TORII, S., SUGITA, M. (2014) "Relation Between Undesirable Eating Habits and Health-related Complaints of Elite High School Track and Field Athletes." European College

学会発表	of Sport Science, Amsterdam, July. 2) ランチョンセミナー座長(2015)「藤田 聡, スポーツ栄養最前線～乳たんぱく質のパワーを探る～」日本農芸化学会2015年度大会, 岡山, 3月.
学内・学外における社会的活動等	1) 株式会社明治顧問 2) JOC科学サポート部会員 3) 日本陸上競技連盟科学委員会委員 4) 日本トレーニング指導者協会参与 5) 聖マリアンナ医科大学非常勤講師 6) 日本大学生物資源科学部非常勤講師 7) 花田学園AT科非常勤講師 8) (財)日本水泳連盟 公認コーチ養成講習会講師 9) (財)日本ボディビル連盟 指導者養成講習会講師 10) (財)体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会講師

氏名・専門領域	鈴木 弥生 ●社会開発論, 国際福祉論
資料・研究ノート等	科学研究費補助金 成果報告書 様式C-19「バングラデシュの貧困と国際労働移動に関する実態調査(A Study on the Relevance of Bangladesh Poverty and International Migration)」基盤研究C, 2011～2013年度, 研究代表者: 鈴木弥生, 2014年6月30日.
学内・学外における社会的活動等	科学研究費補助金「グローバリゼーションと国際労働移動: バングラデシュ女性労働者の実態調査」基盤研究C, 2014～2017年度予定, 研究代表者: 鈴木弥生に基づくニューヨーク, ブルネイ等でのバングラデシュ出身者からの聞き取り調査及び文献・資料収集

氏名・専門領域	角田 慰子 ●障害福祉, 知的障害者の生活支援
著書	角田慰子(2014)「就労継続支援」日本社会福祉学会事典編集委員会編『社会福祉学辞典』丸善出版.
学内・学外における社会的活動等	1) 社会福祉法人つるかわ学園グループホーム第三者委員 2) 社会福祉法人滝乃川学園石井亮一・筆子記念館資料整理・保存活動 3) 社会福祉士全国統一模擬試験「国家試験合格支援委員会」委員 4) 科学研究費助成事業(基盤研究C)「日本における知的障害者グループホーム構想の成立史—制度化前史に見る連続性」(平成26～29年度, 研究代表者, 研究課題番号26380785)

氏名・専門領域	外山 公美 ●行政学, 政策学, 比較地方行政
著書	外山公美他(2014)『日本の公共経営』北樹出版.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本学術会議連携会員 2) 日本オンブズマン学会理事 3) 日本行政学会理事 4) 日本法政学会理事・企画委員長 5) 日本地方政治学会理事 6) 日本協働政策学会理事 7) 豊島区政策評価委員会副委員長 8) 港区情報公開運営審議会副会長

氏名・専門領域	長倉 真寿美 ●高齢者福祉論, コミュニティケア論
著書	1) 長倉真寿美 (2015) 「少子高齢社会と市町村福祉行政のあり方」岡澤憲美編著『比較政治学のフロンティア —21世紀の政策課題と新しいリーダーシップ』ミネルヴァ書房. 2) 長倉真寿美 (2014) 「高齢者と就労」日本社会福祉学会社会福祉学事典編集委員会編『社会福祉学事典』丸善出版.
論文	「老後生活の地域間格差 —現状と課題—」(2015)『住宅』Vol.64, pp.41-48.
資料・研究ノート等	「復興支援3年～“伴走の軌跡”(3)石巻」(2014)『まなびあい』第7号, pp.172-173.
学会発表	1) 「地域包括ケアシステム構築の現状及び課題」(2014) 第28回地域福祉学会大会島根, 6月. 2) 「地域包括ケアシステム構築過程における情報活用の現状—介護保険サービス利用水準別保険者分析結果から—」(2014) 第15回日本福祉介護情報学会大会, 北海道, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員 2) 豊島区都市計画審議会委員 3) 江東区権利擁護センター「あんしん江東」運営委員会委員長 4) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会委員 5) (公財)いきいき埼玉 彩の国いきがい大学「若い世代との交流事業」講師・コーディネーター 6) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト(石巻市) 7) 科学研究費助成事業(基盤研究(C))「保険者類型別地域包括ケアシステムの構築方法に関する研究」(平成25～28年度, 研究代表者, 研究課題番号25380783)

氏名・専門領域	濁川 孝志 ●心身ウエルネス論, 野外環境論
論文	濁川孝志, 遠藤伸太郎, 和秀俊 (2015) 「星野道夫のスピリチュアリティ —文学作品から日本人の志向するスピリチュアリティの一形態とその多様性を考える試み—」『日本トランスパーソナル心理学/精神医学 14(1)』: pp.43-62.
資料・研究ノート等	濁川孝志 (2014) 「星野道夫とワインの日々」立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第7号, pp.206-216.
学会発表	Nigorikawa, T. and Mitsuishi H. (2014): The Relationship Between Habitual Exercise and a Tendency Toward Spirituality. 19th European College of Sport Science, Book of Abstract.
学内・学外における社会的活動等	1) 公開講演会+映画上映会(地球交響曲第1番)の主催 講師: 龍村仁: 「3.11を超えて: 今こそガイアの未来を考える」 (コミュニティ福祉研究所主催) 2014年11月29日 2) シンポジウム+映画上映会の開催 「日本と原発」講師: 河合弘之, 伊澤史朗, 船橋淳 (ウエルネス研究所主催) 2015年1月18日

氏名・専門領域	沼澤 秀雄 ●トレーニング科学, コーチ学
資料・研究ノート等	1) 沼澤秀雄 (2014) 平成26年度文部科学省委託事業「運動部活動指導者の指導者養成研修会」報告書「陸上競技」基本的な技術指導及びトレーニング法 pp.36-54 公益財団法人日本中学校体育連盟. 2) 沼澤秀雄 (2014) 平成26年度文部科学省委託事業「スポーツを通じた地域

資料・研究ノート等	コミュニティ活性化促進事業」事業報告書「ウォーキングプログラム」pp.3-12 神奈川県教育委員会.
学会発表	沼澤秀雄, 小林敬和, 桜井智野風 (2014)「狭いスペースで行うことができる室内プログラムの開発」日本レジャー・レクリエーション学会第44回学会大会, 立教大学, 12月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事長 2) 日本陸上競技連盟普及・育成委員会 委員 3) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 4) 日本キッズアスレティックス協会理事 5) 大学スポーツライミング協会 副会長 6) 日本陸上競技連盟U13クリニック, U16クリニック, 指導者講習会講師 7) IAAF CECS Level1 講師 8) キッズアスレティックスインストラクター養成講習会講師 9) 日本サッカー協会指導者育成講習会S級, A級U12講師 10) 日本サッカー協会サッカーアカデミーランニングコーディネーションコーチ

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治論, 行政学
著書	原田晃樹「市民社会と地方自治」『コミュニティ政策学入門』(坂田周一監修), 誠信書房, 2014年4月, 計320頁(うちpp.87-105を担当).
論文	原田晃樹, 労働組合と市民組織との連携の可能性, 労働調査, 査読無, 2014年11月号, pp.4-7.
資料・研究ノート等	藤井敦史, 原田晃樹, 澤口隆志, 米倉克良 (2015)『日英社会的企業の制度・基盤条件』法律文化社.
学会発表	Kohki HARADA and Yoshichika KUBO (2014), <i>Intergovernmental Relationships in UK and Japanese Governmental Third-sector Policies: Accountability as a New Concept for Power Centralization in an Era of Governance</i> , International Research Society for Public Management Conference 2014, "Intersections: Governance, Democracy, Accountability", April 9-11, 2014, Carleton University, Canada.
学内・学外における社会的活動等	(学内) 国際センター副センター長 (2014年度) (学外) 狛江市外部評価委員会委員 (2014年)

氏名・専門領域	原田 峻 ●地域社会学, 社会運動論, NPO論
論文	1) 藤田研二郎, 富永京子, 原田峻 (2014)「社会運動の連携研究におけるモデル構築の試み——『戦略的連携——連携形成と社会運動』を手がかりに」『書評ソシオロゴス』第10号, pp.1-26. 2) 西城戸誠, 原田峻 (2014)「埼玉県における県外避難者とその支援の現状と課題」『人間環境論集』第15巻第1号, pp.69-103.
資料・研究ノート等	1) 原田峻 (2014)「新任教職員の研究紹介: 変容する市民社会の実態把握を目指して——NPO法の立法運動と原発避難者支援を事例に」『まなびあい』第7号, pp.151-157. 2) 原田峻, 西城戸誠監修 (2015)「福玉便り 2015春の号外」(http://www.hands-on-s.org/fukutama/2015.pdf).
学会発表	原田峻 (2015)「NPO法制定過程における立法運動の組織間連携」日本NPO学会第17回大会, 武蔵大学, 2015年3月15日.
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金企画研究プロジェクトⅢ「埼玉県における原発避難者の実態把握と支援に関する実践的研究」(平成26

学内・学外における社会的活動等	年度・研究代表者) 2) 科学研究費補助金(研究活動スタート支援)「ガバナンスのルールをめぐる力学の解明——NPO間の中央—地方関係に着目して」(平成26年度～27年度・研究代表者) 3) 平成26年度新座市民総合大学修了記念講演「生涯学習とボランティア～原発避難者支援の事例に見るボランティアの意義と課題～」, 2014年12月13日
-----------------	--

氏名・専門領域	平野 方紹 ●社会福祉原論, 公的扶助論, 社会福祉行財政
著書	1) 平野方紹(2015)「福祉行財政の組織システム」市川一宏, 宇野裕, 野口定久編著『福祉行財政と福祉計画』ミネルヴァ書房. 2) 平野方紹(2015)「福祉行財政の実施体制」蟻塚昌克, 関川芳孝編『社会福祉学習双書2015 社会福祉概論Ⅱ—福祉行財政と福祉計画／福祉サービスの組織と経営—』全国社会福祉協議会. 3) 平野方紹(2014)「社会福祉の法体系」「障害福祉をめぐる法制度の推移」「障害者福祉関連法規」「介護保険制度の概要」知的障害援助専門員養成通信教育テキスト2014『知的障害者福祉総論』日本知的障害者福祉協会.
論文	1) 平野方紹(2014)「消費税率引き上げが変えようとするものは何か—社会保障と税の一体改革の本音—」『そよ風』第23号(埼玉自治体問題研究所), pp.3-8. 2) 平野方紹(2014)「親亡き後の生活の実態をどうとらえるのか—障害者実態調査から見えてくるもの—」『地域リハビリテーション』第9巻第5号(三輪書店), pp.352-355. 3) 平野方紹(2014)「さいたま市ノーマライゼーション条例ができるまでの取り組みとその意義」『月刊みんなねっと』(全国精神保健福祉会連合会), pp.11-16. 4) 平野方紹(2014)「地域での生活支援を担う自治体行政をめざして」『月刊福祉』第98巻第1号(全国社会福祉協議会), pp.26-29. 5) 平野方紹(2015)「障害福祉サービス報酬改定のポイントと法人経営・事業経営に問われるもの」『経営協』第378号(全国社会福祉法人経営者協議会), pp.23-26.
資料・研究ノート等	1) 平野方紹(2014)「障害者支援施設と障害福祉事業のあり方に何が問われているのか」『経営協』第374号(全国社会福祉法人経営者協議会), pp.28-29. 2) 平野方紹(2015)「2015年度厚生労働省障害保健福祉部予算を分析する」『ノーマライゼーション』通巻第404号(日本障害者リハビリテーション協会), pp.42-43. 3) 平野方紹(2014)「公的機関」「福祉サービスの利用者」と人権—実定法の解釈と運用—日本社会福祉学会事典編集委員会編『社会福祉学事典』丸善出版. 4) 平野方紹(2014)「障害者福祉制度をめぐる介護福祉の動向と課題」日本介護福祉学会事典編集委員会編『介護福祉学事典』ミネルヴァ書房. 5) 平野方紹(2014)「書評『ホームレス状態からの「脱却」に向けた支援』」『社会福祉研究』第119号(鉄道弘済会), p.125. 6) 平野方紹(2014)「福祉を考える: 障害福祉サービスの動向～障害者総合支援法の概要と期待される効果①・②」『SAI』No.679, p.5 / No.680, p.5.
学内・学外における社会的活動等	○主なもの 内閣府障害者差別解消地域協議会の在り方検討会委員 厚生労働省障害福祉等サービス報酬検討チーム構成員 厚生労働省障害者総合支援法対象疾病検討委員会副委員長 埼玉県障害者地域自立支援協議会会長 さいたま市障害者政策委員会委員長 さいたま市地域密着型サービス運営委員会委員長 さいたま市社会福祉法人設立等審査委員会委員

学内・学外における社会的活動等	川越市社会福祉審議会委員 草加市障害者計画策定委員会副委員長 新座市障がい者施策委員会委員長 志木市地域自立支援協議会会長 桶川市地域福祉計画策定委員会委員長 新宿区外部評価委員会第2部会長 介護福祉士試験委員
-----------------	---

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●NPO論, 社会的企業論
著書	藤井敦史(2014)「社会的企業研究」, 堀越芳昭・JC総研編『協同組合研究の成果と課題1980-2012』家の光協会.
論文	1) 藤井敦史(2014)「社会的排除問題に取り組む社会的企業:日英の経験から」, 『所報協同の発見』261号, pp.6-16. 2) 藤井敦史(2015)「アカウント3を通して見る英国社会的企業が紡ぎ出す「連帯経済」—参加の基盤にあるもの—」, 『協同組合研究誌にじ』, 2015年春号(649号), pp.23-31.
資料・研究ノート等	1) 藤井敦史(2014)「英国市民社会の底力」, 『ウォロ』No.496, p.20. 2) 藤井敦史(2015)「(巻頭言)英国労働者協同組合アカウント3での海外インターンシップ」, 『オルタ』, 2015年2月号, p.1.
学内・学外における社会的活動等	1) 社会的企業研究会で会長として, 社会的企業に関する講演会等を企画運営 2) NPO法人PARC(アジア太平洋資料センター)に理事として参加

氏名・専門領域	松尾 哲矢 ●スポーツ社会学, スポーツプロモーション論
著書	1) 松尾哲矢「スポーツ・レクリエーション概論」公益財団法人日本レクリエーション協会『平成26年度スポーツ・レクリエーション指導者養成講習会テキスト』. 2) 松尾哲矢「スポーツボランティアの「担い手」分析と東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア意向の現在的特徴」笹川スポーツ財団SSFスポーツライフ調査委員会『スポーツライフ・データ2014』笹川スポーツ財団.
論文	1) 松尾哲矢「運動部員がもつ志向の多様化—学校文化からみた運動部の限界と新たな可能性—」(一社)日本体育学会編集『体育の科学』64: pp.242-247. 2) 松尾哲矢, 河西正博, 依田珠江, 和秀俊, 安藤佳代子, 兒玉友「障害児の運動・スポーツプログラム作成に関する実証的研究—肢体不自由特別支援学校における活動実態に着目して—」笹川スポーツ財団, SSFスポーツ政策研究第3巻1号: pp.220-229.
資料・研究ノート等	1) 松尾哲矢他『文部科学省委託事業平成26年度若者のスポーツ参加機会拡充を通じた地域コミュニティ活性化促進事業報告書』(公財)日本レクリエーション協会. 2) 松尾哲矢他『文部科学省委託事業平成26年度高齢者の体力づくり支援事業報告書 スポーツ・レクリエーションを通じた健康長寿社会づくりを目指して』(公財)日本レクリエーション協会. 3) 松尾哲矢他『地域スポーツクラブへの障がい者スポーツ導入ガイドブック』(文部科学省委託事業「平成26年度健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業—地域のスポーツクラブにおける障害者スポーツの導入」)(公財)日本レクリエーション協会.

<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 文部科学省スポーツ・青少年局「スポーツ・青少年スポーツ振興課技術審査委員会」技術審査専門員 2) 文部科学省委託（公益財団法人日本レクリエーション協会）「若者のスポーツ参加機会拡充を通じた地域コミュニティ活性化促進事業」協力者会議 委員長 3) 文部科学省委託（公益財団法人日本レクリエーション協会）「平成26年度健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業—地域のスポーツクラブにおける障害者スポーツの導入」協力者会議 委員長 4) 文部科学省委託（公益財団法人日本レクリエーション協会）「高齢者の体力づくり支援事業」協力者会議 委員 5) 文部科学省委託（公益財団法人日本レクリエーション協会）「レクで学校丸ごと元気アップ事業」コンソーシアム委員 6) 笹川スポーツ財団「SSFスポーツライフ調査委員会」委員 7) 公益財団法人日本体育協会「指導者育成専門委員会」委員 8) 公益財団法人日本体育協会「指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プラン戦略会議」座長 9) 公益財団法人日本体育協会「Sports Japan」編集部副部長 10) 公益財団法人日本体育協会「スポーツ医・科学専門委員会」委員 11) 豊島区スポーツ推進計画策定委員会 委員長 12) 港区教育ビジョン会議スポーツ推進分科会会員 <p>【学会関係】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) (一社)日本体育学会代議員 2) 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事 3) (一社)日本体育学会「体罰・暴力根絶特別委員会」体育社会学専門領域選出協力委員
------------------------	---

<p>氏名・専門領域</p>	<p>森本 佳樹 ●地域福祉の理論と実践的推進方策</p>
<p>資料・研究ノート等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 森本佳樹ほか「復興支援3年～“伴走”の軌跡～」『まなびあい』第3号, pp.168-176. 2) 森本佳樹「書評 独立型社会福祉士—排除された人びとへの支援を目指して—」, 『月刊福祉』11月号, 全国社会福祉協議会, p.101.
<p>学会発表</p>	<p>日本福祉介護情報学会 第15回研究大会 シンポジウム コメンテーター 「地域生活支援における個人情報活用の課題～個人情報保護のあり方を問い直す～」.</p>
<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<p>(学内)</p> <p>立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト・委員長</p> <p>(学会)</p> <p>日本福祉介護情報学会 副代表理事・事務局長</p> <p>(国関係)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 厚生労働省 社会保障審議会専門委員 介護報酬改定検証・研究委員会・委員 2) 総務省 地域実践活動に関する大学教員ネットワーク・幹事 3) 独立行政法人福祉医療機構 WAM NET 事業推進専門委員会・委員 <p>(都道府県・都道府県社会福祉協議会)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 埼玉県社会福祉協議会 福祉人材センター運営委員会・副委員長 2) 東京都社会福祉審議会・委員 3) 東京都 都内避難者孤立化防止事業 実施地区連絡会・アドバイザー <p>(市町村・市町村社協)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 山形県高島町地域福祉計画・山形県高島町社会福祉協議会地域福祉活動計画・アドバイザー 2) 埼玉県和光市地域福祉計画策定委員会・和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会・委員長 3) 和光市地域福祉計画推進委員会・委員長

<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 4) 東京都新宿区社会福祉協議会 経営計画推進部会・会長 5) 東京都江東区社会福祉協議会 地域福祉活動計画推進評価委員会・委員長 6) 東京都練馬区社会福祉協議会 ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会・副委員長 7) 東京都練馬区社会福祉協議会 地域福祉活動計画策定推進委員会・委員長 8) 東京都武蔵野市 地域包括支援センター運営協議会・会長 9) 東京都武蔵野市 地域リハビリテーション推進協議会・委員 10) 東京都武蔵野市 高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会・委員長 11) 東京都立川市 地域福祉計画・あいあいプラン策定委員会・委員長 12) 東京都立川市 地域福祉計画策定委員会・委員長 13) 東京都立川市・福祉アドバイザー 14) 東京都立川市社会福祉協議会・スーパーバイザー 15) 国分寺市 地域福祉計画策定委員会・委員長 16) 横浜市 地域福祉保険計画推進委員会・委員長 17) 石川県津幡町 地域福祉計画・社会福祉協議会 地域福祉活動計画推進委員会・アドバイザー 18) 熊本県水俣市社会福祉協議会・アドバイザー (NPO法人, 社会福祉法人, 財団法人関係) <ol style="list-style-type: none"> 1) NPO法人 福祉の資料と情報・代表理事 2) NPO法人 ケア・センターやわらぎ・理事 3) NPO法人 コレクティブ・理事 4) 社会福祉法人 にんじんの会・理事 5) 社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム第3次中長期計画策定委員会・委員長 <p>(研究事業：昨年度のみ)</p> <p>厚生労働省平成26年度老人保健健康増進等事業「小規模多機能型居宅介護による地域支援のあり方に関する調査研究事業」委員長(事務局NPO法人 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会)</p> <p>(その他)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 『地域福祉研究』(日本生命済生会・発行)編集委員 2) (株)NDソフト「ケア・ナレッジ・マネジメント研究所」フェロー
------------------------	---

氏名・専門領域	山口 敬子 ●子ども家庭福祉, 社会的養護
論文	大石和男, 熊上崇, 山口敬子 (2015)「私語ワーキンググループ報告 私語問題の解決に向けて」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第17号, pp.115-120.
学内・学外における社会的活動等	養子と里親を考える会 理事

氏名・専門領域	安松 幹展 ●パフォーマンス分析, 運動生理学, サッカー科学
著書	安松幹展 (2015)「第13章 いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは」安部孝, 琉子友男 編『これからの健康とスポーツの科学—第4版』講談社.
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 安松幹展 (2014)「Small-sided games and integrating physical preparation の内容①」日本サッカー協会技術委員会『Technical News』Vol.60, pp.44-45. 2) 安松幹展 (2014)「Small-sided games and integrating physical preparation の内容②」日本サッカー協会技術委員会『Technical News』Vol.61, pp.44-45. 3) 安松幹展 (2014)「Small-sided games and integrating physical preparation の内容③」日本サッカー協会技術委員会『Technical News』Vol.62, pp.44-45. 4) 安松幹展 (2014)「Small-sided games and integrating physical preparation の内容④」日本サッカー協会技術委員会『Technical News』Vol.63, pp.44-45.

資料・研究ノート等	<p>5) 安松幹展 (2014) 「第7章 水分補給」「第13章 温度環境の変化」「第16章 温度と気候」 Christophe Hausswirth & Inigo Mujika, 長谷川博, 山本利春 監訳 『リカバリーの科学』, NAP.</p> <p>6) Jens Bangsbo & Magni Mohr 著, 長谷川裕, 安松幹展 共訳 (2015) 『パフォーマンス向上に役立つサッカー選手の体力測定と評価』 大修館.</p>
学会発表	Yasumatsu, M., Abe M., Okabe, T. (2014) "THE EFFECT OF HOT ENVIRONMENT AND DEHYDRATION ON MATCH PERFORMANCE." The 4th Conference on Science and Soccer, Portland, 6月.
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症予防に関する研究」研究班員</p> <p>2) 日本体力医学会評議委員</p> <p>3) 日本フットボール学会理事・副会長</p> <p>4) アジアサッカー連盟コーチインストラクター</p> <p>5) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー</p> <p>6) 日本サッカー協会技術委員会指導者養成部会部会員</p>

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●ノーマライゼーション論, 障害者福祉論
著書	<p>1) 結城俊哉 (2015) 「戦争文化は、この国に何をもたらしたのか」. 大田昌秀, 浅井春夫, 他共著『戦争と福祉についてボクらが考えていること』本の泉社 (日本図書館協会選定図書) (全国学校図書館協議会選定図書).</p> <p>2) 結城俊哉 (2015) 「第5節 ホームレス及び貧困問題と精神保健」, 日本精神保健福祉士養成校協会編集『第2巻 精神保健の課題と支援 (第2版)』中央法規出版.</p>
論文	<p>1) 結城俊哉 (2014) 「被災当事者の『生活経験の語り』に関するレジリエンスの構成要件の検討～東日本大震災の被災者S氏の『語り』の記録を手がかりとして～」『立教大学 コミュニティ福祉研究所 紀要』第2号, pp.95-113.</p> <p>2) 結城俊哉 (2015) 「社会福祉実践における『ナラティブ (語り) 研究』の可能性の検討～臨床研究における質的研究の方法論として～」『立教大学 コミュニティ福祉学部 紀要』第17号, pp.71-88.</p>
資料・研究ノート等	<p>1) 結城俊哉 (2014) 研究ノート「ケアの担い手の臨床力をどう育てるのか～スーパービジョン関係における「成長過程」の検討から～」立教大学 コミュニティ福祉学部『まなびあい』第7号, pp.158-167.</p> <p>2) 結城俊哉 (実績検討プロジェクト作業部会責任者) 他 (2014) 「調布市こころの健康支援センター実績報告書 (平成19年6月～平成26年3月)」社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 (全181頁).</p>
学会発表・講演会・研修会	<p>1) 日本福祉文化学会関東ブロック研修会・コーディネーター (8月・3月). ・「福祉現場でもとめられる職員の質とは何か? (1): 支援者・当事者からの発信」. ・「福祉現場でもとめられる職員の質とは何か? (2): 虐待事例を手がかりとして」.</p> <p>2) 調布市こころの健康支援センター職員研修・講師 (10月). ・「相談という仕事の意味」.</p> <p>3) 愛知県全国手話通訳問題研究会・手話通訳者研修会・講師 (11月). ・「相談援助活動とは何か」.</p> <p>4) 調布市地域精神保健福祉ネットワーク学習会・講師 (2月). ・「相談の仕事ってなんだろうか?」.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会・委員長 (2006.2～現在)</p> <p>2) 調布市こころの健康支援センター運営委員・委員長 (2007.4～2015.3)</p> <p>3) 一般社団法人日本社会福祉学会『社会福祉学』学会誌編集委員 (2012.10～現在)</p>

学内・学外における社会的活動等	4) しょうがい(学生・職員)支援ネットワーク委員 5) 首都大学東京・非常勤講師 6) 科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究「震災後社会におけるリジリエント・コミュニティ構想に向けた基礎的研究」平成25年～平成27年・研究代表者)
-----------------	---

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童・家族福祉, 社会政策とジェンダー
著書	湯澤直美(2015)「子どもの貧困解決とジェンダー平等が優先課題」『全論点 人口急減と自治体消滅』時事通信社.
論文	湯澤直美(2014)「子どもの貧困対策推進法の施行と大綱策定」『法律のひろば』67(7), pp.4-11.
資料・研究ノート等	1) 湯澤直美(2014)「家族をめぐる問い: みようとしなければみえないものを見る力」『家教連家庭科研究』(317), pp.4-9. 2) 湯澤直美(2014)「子どもの貧困への視座: 「不利の雪だるま」を生み出さないために」『ねぞす』(53), pp.38-43. 3) 湯澤直美(2014)「子どもの貧困問題への市民の取り組み」『児童養護』45(2), pp.40-43. 4) 湯澤直美(2014)「深刻化する子どもの貧困」『みんなのねがい』(577), pp.24-26. 5) 湯澤直美(2014)「子ども・保護者の砦としての学校: 子どもの貧困問題への取り組み」『学校運営』56(7), pp.10-13. 6) 湯澤直美(2014)「シングルマザーは高就労率で高貧困率 女性の経済的自立は構造的課題」『Journalism』(295), pp.154-159. 7) 湯澤直美「保育所における貧困・低所得世帯の保護者への支援」『保育通信』4月号No708. pp.12-15. 8) 湯澤直美「貧困状況にある子どもの発見と支援」『保育通信』7月号No711. pp.16-19. 9) 湯澤直美(2014)「子どもの貧困対策推進法の成立と市民の合意形成」『月刊クレスコ』9月号No.162. 10) 湯澤直美他(2014)『「女性の活躍促進」の虚実」「都市問題」公開講座ブックレット. 11) 湯澤直美他(2014)『ひとり親家庭に育つ子供の状況調査報告書』東京都保健福祉局少子社会対策部育成支援課ひとり親福祉係. 12) 湯澤直美(2014)「子どもの貧困対策法の制定と大綱制定をめぐる課題」『子ども白書』pp.138-139. 13) 湯澤直美(2014)「子ども家庭福祉における自立支援の意義と展開」「ひとり親世帯の貧困と児童扶養手当」『社会福祉学事典』丸善出版. 14) 湯澤直美他(2015)『婦人相談員相談・支援指針』丸善出版. 婦人相談員相談・支援指針策定ワーキングチーム. 15) 湯澤直美(2015)「「子供の貧困対策に関する大綱」の概要とポイント」『子どものための学校事務』128号. 16) 湯澤直美(2015)「書評 誕生日を知らない女の子」『書評大全』共同通信文化部編. 17) 湯澤直美(2015)「貧困・低所得世帯の子ども支援と学校教育」『教職研修』43(7), pp.26-28. 18) 湯澤直美(2015)「子どもの貧困の現状」『児童委員活動の手引き』全国民生委員児童委員連合会, pp.2-7.
学会発表	1) 湯澤直美(2014)「“子どもの貧困”とフェミニズム」日本フェミニスト経済学会2014年度大会, 愛知, 7月. 2) 湯澤直美(2014)「次世代=子ども・若者が希望を持てる社会とは—子どもの貧困対策の構築」自治体議会政策学会第16期自治政策講座, 神奈川, 11月.

学会発表	3) 湯澤直美 (2014) 「子どもの貧困問題が照射する日本社会」第9回 社会デザイン学会年次大会, 東京, 12月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本学術会議連携会員 2) 日本社会福祉学会理事 3) 全国社会福祉協議会・母子生活支援施設協議会 中央推薦協議委員 4) 厚生労働省「婦人相談員活動指針策定ワーキングチーム」座長 5) 東京都社会福祉協議会「低所得世帯の子どもへの支援構築プロジェクト」委員長 6) 東京都社会福祉協議会「自立生活スタート支援事業運営審査委員会」副委員長 7) 川崎市男女共同参画センター「シングル・ファーザー生活調査事業」プロジェクト会議委員 8) 社会福祉法人「礼拝会」評議員 9) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」理事 10) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事 11) 『貧困研究』(明石書店) 編集委員会委員 12) 一般財団法人「東京都母子寡婦福祉協議会」評議員 13) 東京ウイメンズプラザDV防止等民間助成活動事業審査委員会委員 14) NPO法人「こどもの里」理事 <研修等> 1) 神奈川県保健福祉局福祉部生活援護課「生活保護・子ども支援研修」講師 2) 埼玉県アスポート事業「学習支援ボランティア全体研修」講師 3) 内閣府「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体職員研修」講師 4) 平成26年度「社会的養護を担う児童福祉施設長研修会」講師 5) 東京都民生児童委員連合会「民生児童委員研修」講師 6) 東京都社会福祉協議会「施設長・従事者合同研修会」講師 7) 東京都ひとり親家庭支援センター「平成26年度第4回相談支援員研修会」講師 8) 全国民生委員児童委員連合「全国児童委員研究協議会」講師 9) 社会福祉法人ベテスタの会いずみ寮 研修会講師 10) 特定非営利活動法人ヒューマンサービスセンター 研修会講師 11) 東京都母子寡婦福祉協議会「母子相談の家研修会」講師 12) 元町カフェ・兵庫自治学会「子どもの貧困」研修会講師 13) 三芳町社会福祉協議会「福祉大学」講師

氏名・専門領域	LEITNER Katrin Jumiko ●スポーツマネジメント論, 競技スポーツの日欧比較研究
学会発表	LEITNER, K. (2014) 「ヨーロッパにおける競技アスリートのデュアルキャリアに関する社会学的一考察 —N.ルーマンの社会システム論から—」日本体育学会第65回大会, 盛岡, 8月.

氏名・専門領域	リッチー ザイン ●言語学, 近代日本史
論文	1) Ritchie, Z & Short, J. (2015) "Challenges to community resilience in a post-natural disaster context: observations and reflections on the Christchurch earthquakes of 2010 and 2011." 『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第17号, 3月, pp. 89-102. 2) Ritchie, Z. & Miller, R. (2014). "Utilizing smartphones and tablet technology in CBI courses to enhance the learning experience". In R. Chartrand, G.

論文	Brooks, M. Porter, & M. Grogan (Eds.), <i>The 2013 Pan-SIG Conference Proceedings</i> , Nagoya, 4月, Japan., pp. 322-329.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> 1) Ritchie, Z. (2015) "A CBI & Blended Learning Approach: Increasing Student Motivation". TESOL Arabia, Hyatt Regency Hotel, Dubai, 3月. 2) Ritchie, Z. (2014) "Reconstruction of Christchurch: Accounts and Observations". Peace as a Global Language Conference. 神戸学院大学, 6月. 3) Ritchie, Z., & Short, J. (2014) "Reflections on the Christchurch Earthquakes". Global Campaign for Peace Education Japan Forum, 大東文化会館, 7月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> 1) Ritchie, Z. (2015) "Disaster Management: Lessons from the Christchurch Quakes". Delivered to students. The Management University of Africa, ナイロビ・ケニア, 3月 2) Ritchie, Z. (2015) "The Japanese Urban Agricultural Movement". Delivered to students at the Management University of Africa ナイロビ・ケニア, 3月 3) Ritchie, Z. (2015) "Professional Development Workshop". Delivered to faculty, at the Management University of Africa. ナイロビ・ケニア, 3月 4) 2014年度立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金採択